

## 地域おこし協力隊活動報告書

|      |           |
|------|-----------|
| 活動団体 | 南九州市茶業振興会 |
| 役職   |           |
| 氏名   | 窪 拓摩      |
| 着任日  | 令和3年2月1日  |

|      |                                             |
|------|---------------------------------------------|
| 活動月  | 令和5年10月(着任2年9ヶ月)                            |
| 主な活動 | 1. ツーリズムEXPO ジャパンへの知覧茶PR<br>2. 協力隊活動研修会への従事 |

### 1. ツーリズムEXPOジャパンでの知覧茶PR



写真: 鹿児島県ブースでの県内各エリアの紹介をする様子

秋のイベント等行事毎が続々と入ってきている当月、例月とは異なり土日出勤の平日休みなど、不規則なスケジュールで柔軟に業務を進めていった一月でした。  
今回、ひよんなことから商工観光課からお話をいただき、大阪の大規模会場で開催される、海外からのバイヤーなどが多数参加するツーリズムEXPOジャパンへ参加をしてみました。



## 地域おこし協力隊活動報告書

通常の来場者向けに知覧茶のPRを実施したほか、複数回にわけてブースに来られる20名から30名ほどのバイヤー団体に、知覧茶を淹れながら産地の説明、さらに初心者でもわかるように深蒸しとは、煎茶とはの紹介を英語で実施しております。

煎茶を飲み慣れていないエリアご出身の参加者からは、茶のインパクトが強すぎて合わないなどのご意見や、日頃から茶に親しみのある文化圏の方からは、ここですぐに購入したいなどの様々なコメントをいただいております。



写真：鹿児島県のブースの顔とも言える場所での知覧茶PR

南九州市でつくられている知覧茶の生産量は、鹿児島県内の茶のシェア約50%ほどもあり、かつ日本全国の市町村別茶生産量においては日本一を誇ります。

ということは、単に知覧茶≡南九州市というだけでなく、知覧茶≡鹿児島を代表するお茶でもあり、広域で考えると日本茶文化≡日本文化にも繋がっていきます。

上記の視点で考えると、今後知覧茶ブランディングにおいて、どのような展開をしていけばいいのかが、ぼんやりとでもイメージできてくるのかなと私は日々考えております。

鹿児島県ブースの方々ともお話しができ、ぜひ次回以降のPRイベントがあった際には、ご一緒させていただきたい旨をお伝えし、今回の出張を締めくくりました。



## 2. 協力隊活動研修会への従事



写真:フェリーとしま船内から見える十島村の姿

パンデミックもかなり落ち着きを見せ、対面での活動が活発になっている本年、数年動けていなかった鹿児島県内の地域おこし協力隊の日々の活動を研修しにいく会に参加をいたしました。今回の研修場所は、鹿児島市の北埠頭から発着のある「フェリーとしま」で片道半日ほどかかる悪石島になります。

鹿児島県も非常にユニークな県であり、大きく薩摩半島と大隅半島でも独自の文化が根付いており、さらに大小の島々での文化を考えると、全国でも非常に魅力のあるエリアだと考えられます。





写真:計73名が生活をしている悪石島での研修風景

現在、悪石島で生活をされているのは計73名となっており、生まれも育ちも悪石島の方と環境が気に入り移住をされた方、協力隊として着任をされた方など、それぞれの背景を持っている集まりで、全員が家族のようなスタイルで生活をされておられることに、ある種のカルチャーショックを受けました。

陸路での商品輸送ができないため、週二回港に着くフェリーがライフラインの大きな役割を果たしており、島内放送で出動の合図が出ると、仕事や家事の手を一旦止め、島内全員が港へ向かいます。

ここでの地域おこし協力隊の活動を見ていると、「こういう活動をしてもらえたら活性化につながるな、いいな」ではなく、活動をしないと極論命の危機に陥るといった生きるために非常に重要な業務をになっている印象を強く受け、同じ協力隊であってもあり方は全く異なるのだと痛感した研修でした。

以上簡単ではございますが、当月の報告といたします。

